

マーヅ川再生 (英国)

マーヅ川は、産業革命の進展とともに汚染され、約 200 年にわたりヨーロッパでもっとも汚染された川と言われていた。その水環境に改善が見られるようになったのは、1960 年代になってからである。経済の衰退、都市の荒廃、環境の問題等を内包するマーヅ川流域をどのように復活させるかという、経済の再生、環境の再生活動が始められた。

1980 年からは、マーヅ川の河口のクリーンアップ作戦として、下水排水の浄化を図る政府の 15 年間投資計画 (1 億 7 千万ポンド、340 億円) が開始された。これが、1985 年には環境省が中心となって、「マーヅ川流域キャンペーン」へと継続することになった。政府、企業等で総額 40 億ポンド、25 年間継続するプログラムである。この活動は、「世界でも勇気の湧く先進事例」であり、イギリス国内及び EU 内でも高く評価されている。

◆ 再生のポイント

- マーヅ川流域の再生
- 水辺の再生、経済の再興
- パートナーシップの精神

◆ マーヅ川概要

イギリスの産業革命発祥の地、マンチェスターやリバプールを流れるマーヅ川。流域面積は約 5000km² である。1800~1900 年、急速な産業化と都市化により水系の破壊が進んだ。

マーヅ川の流れる地域では、世界の先進国の都市と同様、経済の衰退、都市の荒廃、環境の問題などを抱えていた。

イギリスでは、福祉国家の社会実験などに代表されるように、行政があらゆることをするシステムの限界が認識されるようになり、「公共セクター」、「ボランティアセクター」、「民間(企業)セクター」が相互に対立する構図があった。

このような社会の状況の中で、その打開に向けて、サッチャー政権が登場し、民営化路線が始められ、地域をどのように復活させるかという経済の再生への活動と併せて、マーヅ川流域の環境面からの再生活動が始められた。



◆ 再生のために実施した事業

【マーヅ川流域の再生】

産業革命以降ヨーロッパで最も汚染されたと言われてきたマーヅ川流域では、1980 年から、河口のクリーンアップ作戦として、下水排水の浄化を図る政府の 15 年間投資計画 (1 億 7 千万ポンド、340 億円) が開始され、魚が棲める川、水路、運河への水質改善、下水道の改善等が行われた。

【水辺の再生、経済の再興】

ビジネスや住宅開発、ツーリズム、文化遺産、レクリエーション、野生生物などに適した魅力的な水辺環境を形成する。



水辺の賑わいの回復

【パートナーシップの精神】

公共セクター、民間セクター、ボランティアセクターの連携及び、3 つの NPO、600 以上の NGO、民間企業のパートナーシップで、人々が水辺の環境価値を認識する支援を行っている。水辺の体験・環境学習・各種イベント、清掃等や、支川の流域単位のイニシアティブも活発に行われている。

出典：「イギリスの<マーヅ川流域キャンペーン>について」吉川勝秀 「河川」No.612 社団法人日本河川協会 p.61

『人・川・大地と環境 - 自然共生型流域圏・都市に向けて - 』吉川勝秀 技報堂出版 2004.2

JICE Report vol.4 2003.11 国際フォーラム「流域の総合的管理と住民のパートナーシップ、合意形成」

http://www.jice.or.jp/jice_report/pdf04/jice_rpt04_14.pdf